

スマートベッドシステム導入による業務改善の取組み



病床数 334 床 一般病棟 287 床 集中系 47 床
看護職員 541 名 看護師 433 名 看護補助者 108 名

《課題・背景》

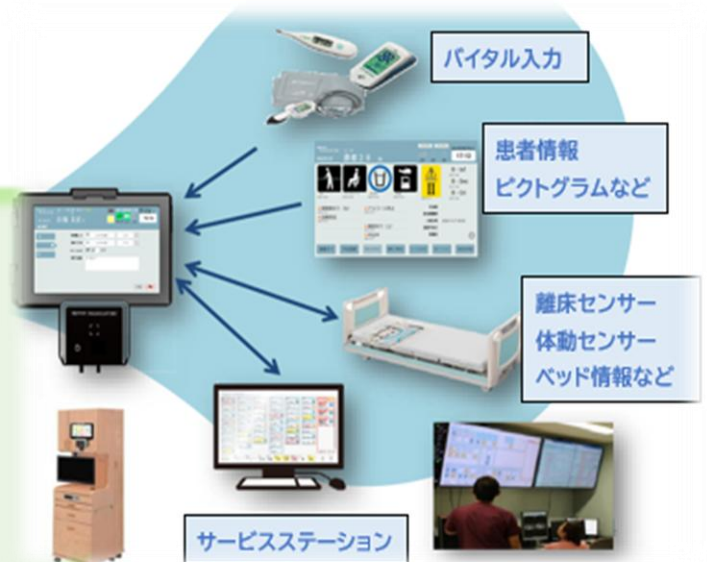
- ◆バイタルサインの入力
 - ・紙媒体記入後の入力に時間がかかる
 - ・医師の確認で看護業務が中断される
 - ・通信機能付を活用できてない
- ◆情報共有(スタッフ・对患者)
 - ・情報がタイムリーに伝わらない(注意喚起・リハビリや検査の時間・退院日など)
 - ・食事量や尿量などを看護師が入力している
 - ・掲示物が多く見栄えの悪さ
 - ・指示変更時の書き換えが発生
- ◆転倒・転落防止対策
(転倒転落発生率 2.46%)
 - ・離床センサーの設定や取り扱い、対策が統一されていない

《目的・目標》

スマートベッドシステム導入することで
1 バイタルサイン入力の時間削減、
転記不要で誤入力をなくす
2 バッドサイドの掲示物を整理し、バッドサイド
端末で多職種間の情報共有がタイムリーにでき、
その場で患者対応ができる
3 全バッドに離床センサーを設置することで時間的削減ができる。
多職種間で転倒転落防止策がとれる。
離床センターの設定フローを標準化する

《取組み内容》

- 1 スマートベッドシステム導入
 - ・新病院移転と同時に使用開始
 - ・ワーキングチーム発足
- 2 情報共有・タスクシフト
 - ・バッドサイドの掲示物を整理する
 - ・食事量や尿量は看護補助者が入力する
- 3 全バッドに離床センサーを設置
 - ・端末で設定もれや接続外れを把握できる
 - ・離床センターの設定フローを標準化する



《成果・効果》

スマートベッドシステム導入後の効果

- ① バイタルサイン測定時間の減少 7分30秒 → 1分34秒
誤入力率 8.7% → 0%
- ② 食事量や尿量の入力を看護補助者へタスクシフト
全患者の食事入力までの所要時間 40分 → 20分
掲示物の整理が出来た
- ③ 転倒転落発生率 2.46% → 0.05%

《ナースセンターから一言》

- ◎「医療 DX 推進」
県内でのスマートベッドシステム導入の先駆者ですね。
- ◎IT化で業務改善やチーム医療実現に向けて、浦添総合病院の取組みは、とても参考になる事でしょう。